

早瀬勇名誉会長の外務大臣表彰受賞についてのご報告

認定 NPO 法人横浜日独協会
会長 成川 哲夫

外務省は8月20日、令和3年度外務大臣表彰受賞者を発表し、認定 NPO 法人横浜日独協会早瀬勇名誉会長が、半世紀にわたる「日本とドイツとの相互理解の促進」への功績が顕著であったとして表彰されました。

外務大臣表彰は、国際関係の様々な分野で活躍し、日本と世界の平和に貢献した方々の中から、特に顕著な功績のあった個人及び団体の功績をたたえるとともに、その活動に対する国民の一層の理解を促すことを目的としています。受賞者のほとんどは日本との親善に功績のあった外国人ですが、今年度の日独交流関係者は、早瀬名誉会長やサッカーの長谷部誠選手とドイツ人一人を含む計6人でした。

外務省の功績説明は以下の通りです。

「早瀬勇氏は、2004年、金沢星稜大学学長に就任し、日独両政府が推進した『2005/2006年・日本におけるドイツ年』に貢献。2010年、横浜日独協会初代会長に就任し、フランクフルト独日協会との協力協定に基づく日独高校生相互派遣、独のインダストリー4.0に関する中小企業セミナー、日独ユース・女性フォーラム、さらにハンブルク独日協会との協力覚書に基づく横浜での「ハンブルク桜の女王」歓迎会主催等、あらゆるレベルでの日独間の交流強化に尽力した。2018年以降は全国日独協会連合会の副会長も兼務している。」

このたびの受賞についての早瀬勇名誉会長の談話はつぎのとおりです。

「身に余る光栄ですが、これは早瀬個人の名誉ではなく、初代会長を10年半務めさせて頂いた横浜日独協会や、その前に3年間会長を務めた石川（金沢）日独協会の会員の皆様のご協力・ご尽力に対するご褒美です。また金沢星稜大学学長時代に日独合同経営フォーラムを金沢で共催したドイツの姉妹校ロイトリンゲン大学やゲルゼンキルヘン経済大学の仲間たちへの大きな励ましになるでしょう。半世紀にわたる日独交流での全ての関係者に心から感謝します。特にシュミーゲロー大使、シュタンツェル大使はじめ歴代の駐日ドイツ大使のご支援や、親日ドイツ人の皆様のご協力は忘れられません。

これを励みに、今後も協会の名誉会長並びに（財）アジア・ユーラシア総合研究所の評議員（兼）日独フォーラム座長として、日本とドイツとの交流に関わって参ります。」

私たちもこれを機に、横浜日独協会設立以来11年間の実績の上に、さらに日独交流を発展させていきたいと思っております。

